明治大学外国人研究者招聘制度 報告書

<招聘教授・研究員の情報 / Guest Professor・Guest Scholar>

氏名	張小玲
Name	張小玲
所属機関(派遣元)	中国海洋大学
Affiliation (Home Organization)	中国海洋大学
現在の職名	教授
Position	教授
研究期間	2024/4/3-2024/9/25
Period of Stay	2024/4/3-2024/9/25
専攻	日本近代文学
Field of Research	日本近代文学
ホスト教員氏名と所属学部研究科等	竹内栄美子 文学部
Name of host teacher and affiliation at Meiji University	竹内栄美子 文学部

<外国人研究者からの報告 / Foreign Researcher Report>

①研究課題 / Research Theme
日本プロレタリア文学における「反戦」
②研究概要 / Outline of Research
日本近代文学において、本格的な「反戦」作品は数少ないが、その大部分はプロレタリア文学から生まれたものである。招聘者は、これまで木下尚江や幸徳秋水などの初期社会主義者の「非戦」活動と文学について研究していたが、明治大学での半年近くの研究では、これまでの成果を踏まえた上で、引き続き黒島伝治を中心としたプロレタリアの「反戦」文学についての研究を進めていたのである。 黒島伝治は日本近代文学史において、「済南事件」(1928)を小説の題材とした唯一の作家で、短編小説の「題を××にした小説」(1929/5)と長編小説の「武装せる市街」(1930/11)を残した。今まで、「題を××にした小説」を「武装せる市街」の雛形として位置づけ、両者の連続性を論じた先行研究はあるが、前者から後者へ飛躍したきっかけ——黒島伝治の「中国旅行」(1929年秋)の大切さに注目した研究成果は稀である。招聘者は、中国側の社会背景資料と明治大学図書館や国立国会図書館の黒島伝治についての資料を対照しながら、「中国旅行」から得た済南ないし中国の「実態」を有効な「身体性認知」(embodied cognition)の材料として、黒島の「済南事件」の描写や彼の反戦意識に多大な役割を果たしたということを発見した。いわば、中国人民の貧困の「実態」、マッチ工場の植民「実態」、アヘン氾濫の「実態」、「満州」と「山東」の関係の「実態」、これらは「武装せる市街」における戦争全貌や植民政策の本質などへの洞察をもたらしているのである。そして、「日本とアメリカの戦争」や日本人と中国人の「階級連帯感」などの描写は「実態」の確認がないが、「中国旅行」の経験があるからこそ、戦争への正しい予言ができ、民族—国家の現実主義や個人的な自由主義視点からの戦争認識も補充されるようになった。
③招聘期間中の研究活動の実績 / The research results as Guest Professor・Guest Scholar
明治大学での半年間、ホスト教員である竹内栄美子教授のもとで、大変充実した共同研究をおこなうことができた。主に以下のである： ①竹内ゼミにおいて「黒島伝治文学における「済南事件」の「実態」と「想像」——「題を××にした小説」と「武装せる市街」を中心に」というテーマの研究発表をおこなった。そして、竹内教授、東京工科大学の神子島健教授をはじめ、ゼミの皆さんのご指摘とアドバイスをいただいた。この発表をもとにした論文を完成し、『中国比較文学』に投稿した(審査中)。 ②竹内ゼミ合宿に参加し、長野県下伊那郡阿智村の「満蒙開拓平和記念館」と長野県塩尻市北小野の古田晁記念館を見学した。この見学を通じて、「国家理性」で行った戦争が「個体」にいかに残酷な体験と記憶をもたらしたのかということを実感し、より一層「反戦」の必要性和大切さを感じたのである。またゼミ合宿では、木下尚江の研究発表をおこない尚江における「非戦」思想について「反戦」に繋がる議論を深めることができた。 ③明治大学の図書館と国立国会図書館で、日本近現代における「反戦」文学や思想の資料を調べた上で、中国国家留学基金会の誘いで、日中文化交流史講演シリーズ6の発表を担当し、「日本近代反戦文学の思想史背景」というスピーチをした。 ④竹内教授の紹介によって「日本社会文学会」と「日本近代文学会」の会員になり、2024年度日本社会文学会春季大会、2024年度日本近代文学会春季大会などの会議に参加し、日本近代文学研究の専門家と研究交流できるようになった。また、2024年5月12日に東京外国語大学で実施された「Workshop in Critical theory」における「東アジアの視点から読む現代日本の思想」に参加し、澳門大学の林少陽教授の著作『戦後思想と日本のポストモダン』をめぐる議論に参加できた。竹内栄美子教授と岩崎稔東京外大名誉教授による提題に対し林少陽教授のリプライがあり、早稲田大学、神戸外国語大学、日本女子大学、東京経済大学、東京大学などの研究者と議論、交流でき有益であった。